JICA沖縄 草の根技術協力事業

「沖縄の強み」ワーク集１

沖縄×平和

「沖縄の強み」ワーク集　その１〈沖縄×平和〉

〇もくじ

【ねらい】	１ページ
【この教材の使い方】	２ページ
【ワークⅠ】“平和教育”のイメージ	３ページ
【ワークⅡ】“平和博物館”を創ろう！	６ページ
【ワークⅢ】“平和博物館”創りの様子を知ろう！	10 ページ
【カンボジア情報】	16 ページ
【実践事例紹介】	19 ページ
【写真教材】	22 ページ
（制作者等について）	32 ページ

【ねらい】

沖縄は日本の一部でありながら、その歴史的・地理的特異性によって育まれてきた独特の知識や経験、技術があります。本教材では、それを**「沖縄の強み」**と位置付け、それらを生かした国際協力の事例を参加型手法によって学べるようにしました。写真やシナリオなど様々な資料にカードワークやブレインストーミングといった参加型手法を取り入れながら進行する教材です。その際、「沖縄だからこそできる国際協力」の中心人物に参加者（生徒）自身を据えることで、主体的に学べるように構成されています。本教材を通して、参加者が「あたりまえ」と思っていた身近な事が「沖縄だからこそできる強み」であるということに気づくと同時に、国際貢献への興味関心を高めるだけではなく、社会と関わりながら世界の課題を解決しようとする「持続可能な社会の担い手」としての意識を高めていくことをねらいとしています。なお、本教材で取り上げた国際協力の事例は「JICA 草の根技術協力事業」*に基づくものです。以下、本教材で取り上げた事例の主な概要です。

事業名	１「平和博物館」協力	２「平和文化」創造の博物館づくり協力
実施団体名	沖縄県平和祈念資料館	沖縄県平和祈念資料館 沖縄県立博物館・美術館
実施期間	2009 年５月～2012 年３月	2012 年７月～2015 年３月
支援対象国	カンボジア	

＊「JICA 草の根技術協力事業」とは・・・

日本の NGO や NPO、自治体、大学、市民などに、これまで培ってきた技術を活かして企画した途上国への協力活動を提案していただき、JICA が審査・採択して支援しながら行う事業のこと。沖縄からアジア・南米の国々へ 27 件（令和２年末現在）の事業が実施されている。（JICA 沖縄「草の根技術協力事業」パンフレットより）

【この教材の使い方】

〇本教材は「参加型学習」の方法で進行する構成となっています。「参加型学習」とは「一方向の知識伝達型の学習ではなく、学習者が学習過程に積極的に参加することを促す学習形態」（『現代国際協力辞典』より）のことです。学習プロセスにおいて知識よりも気づき・考える体験を重視します。「持続可能な社会の担い手」、つまり、国際協力という社会参加を促すことを目的とした本教材では、学習スタイルそのものもこのような「参加」型で行うほうが有益です。よって、どのワークにもさまざまな「参加型学習」を取り入れたアクティビティが取りいれられています。進行役はファシリテーターとなって、参加者の思いや考えを上手に引き出していきましょう。参加者が自身の納得解・最適解を追求してきるように支援しましょう。

〇本教材は「ワークⅠ」「ワークⅡ」「ワークⅢ」の三部構成となっています。参加者の実態や実施する目的等によって、どのワークからでも始められます。推奨するのは下記のパターンＡですが、パターンＢ～Ｃの展開方法も考えられます。なお、パターンＡを推奨しているため、ふりかえりはワークⅢのみに提示していますが、パターンＢや提示するパターン以外の場合でも、必ずふりかえりは行ってください。ふりかえりのやり方については、下記を参考にしてください。

パターンA	ワークⅠ　⇒　ワークⅡ　⇒　ワークⅢ（ふりかえりの例示あり）
パターンB	ワークⅠ　⇒　ワークⅡ　⇒　ふりかえり（下記参照）
パターンC	ワークⅠ　⇒　ワークⅢ（ふりかえりの例示あり）

〈ふりかえりの目的とやり方の例〉

個人内でふりかえったことをペアまたはグループ、全体で共有することで新たな価値に気づきながら新たな問いを見出すことにもつながります。参加者の実態等に応じて、下記の例を参考にふりかえりを取り入れましょう。

方法例	具体的なやり方
トーク法	「気づいたこと」等を自由に話し合わせる。
記入法① ふりかえりシート	「新しく知ったこと」「驚いたこと」「もっと知りたいと思ったこと」等の項目を与え、個人で記入させた後、ペアまたはグループで共有させる。
記入法② 付箋紙	「驚いたこと」をブルー、「もっと知りたいこと」をピンク・・・というように付箋紙に記入させ、グループで共有させる。

＊以下の参考文献にも様々なふりかえりの方法が紹介されています。

〇開発教育協会（2017 年）『開発教育　基本アクティビティ集１　世界とのつながり』

ワークⅠ “平和教育”のイメージ

ねらい	“平和教育”に対するイメージを言語化し共有することで多様性に気付く。 “平和教育”の目的を考えることで、その後のワークⅡ～Ⅳへの導入とする。		
準備物	①付箋紙（サイズ5×1.5cm）：一人 10 枚程度 ②A3用紙（付箋紙を貼る台紙）：各グループに1枚 ③マジックペン：一人1本 ④マグネット付きホワイトボードとマーカー（A3用紙とマグネットで代替可）：各グループに1つ ⑤資料1沖縄県内高校生たちの“平和教育”へのイメージ：全体表示用（または各グループに1枚） ⑥資料2「リフレクションシート」：一人 1 枚		
留意点	4名前後のグループ活動となるように机やイス配置など部屋のレイアウトを行い、準備物①～④を配布しておく。		
所要時間	15 分以上	対象年齢	中学生以上

学習内容 （「 」は発問や指示の例）	ポイント
1.“平和教育”と聞いてイメージすることは何かな？ ●参加者全体の“平和教育”への受講歴を確認します。 「“平和教育”受けたこと、またはやったことありますか？」 「“平和教育”と聞いてイメージすることは何ですか？付箋紙1枚に1つ、思いつくこと事をマジックで記入しましょう。一人〇枚以上、記入するようにしましょう。記入時間は〇分間です。」	◆“平和教育”への受講歴を確認することで、“平和教育”が身近だという意識を高めましょう。 ◆ブレインストーミングの要領（一枚に1つの事柄、文字は大きく単文で、質より量、等）を全体で確認して取り組ませましょう。 ◆記入させる枚数や時間は参加者の実態に応じて設定しましょう。
2.“平和教育”のイメージをグループで共有しよう！ ●ある程度、記入が終わっていることを確認します。 「記入したことをA3用紙に貼りながらグループで共有しましょう。同様の内容はグルーピングしましょう。」	◆一人ずつ記入したことを読み上げながら貼り付けさせるようにしましょう。それぞれのイメージを否定する言動がないように活動を見守りましょう。
3.“平和教育”のイメージを全体で共有しよう！ ●グループ内の共有ができていることを確認します。 「隣のグループに付箋紙を張り付けた台紙を回しましょう。回ってきたら自分のグループにはなかったイメージが記入されている付箋紙の右上に☆印を付けましょう。」 ●☆印の記入が終わっていることを確認します。 「☆印を記入した台紙を別のグループへ回しましょう」	◆各グループで☆印をつける人を決めてから活動をスタートさせても構いません。 ◆1グループだけではなく、複数のグループの活動作品（台紙）を共有させ、“平和教育”に対するイメージの多様性を感じさせられるようにしましょう。 ※次頁の資料1「沖縄県内高校生たちの“平和教育”へのイメージ」を全体に提示すると、そのイメージをさらに膨らませる効果が期待できます。
4.“平和教育”は何のために行うのだろうか？ 「“平和教育”は、何のために行うと思いますか。“平和教育”を行う理由をグループで話し合い、ホワイトボードに記入しましょう。」 ●記入が終わったことを確認します。 「記入したグループはホワイトボードを黒板に貼りに来てください。全体で共有しましょう。」	◆「“平和教育”を行うメリット（利点）は何だと思いますか」等の発問を加えたりすることで、参加者が思考を深められるようにしましょう。 ◆各グループの考えを全体で共有しながら「なぜ、そのように考えましたか」等、理由を述べさせてみましょう。
5.ミニふりかえり 「リフレクションシートを配布するので記入しましょう。」 記入が終わったらペアまたはグループ、全体で共有しましょう。	◆ワークⅡやワークⅢに進む場合は、資料2の項目について自由に発言させるだけでもよい。

【資料1】 沖縄県内高校生たちの“平和教育”へのイメージ（2020 年実施例）

【資料2】

リフレクションシート

1. おどろいたことは何ですか？

2. 新しく知ったことは何ですか？

3. もっと知りたい／疑問に思ったことは何ですか？

4. 自由に思ったことや考えたことを記入しましょう。

（　　）月（　　）日　実施　氏名（　　）

ワークⅡ “平和博物館”を創ろう！

ねらい	C国（カンボジア）の内戦について理解を深める。 沖縄県内の学芸員という立場に立って、海外における平和博物館創りを協働しながら考える。		
準備物	①付箋紙（サイズ 7.5×7.5cm）：一人 10 枚程度 ②A3用紙（付箋紙を貼る台紙）：各グループに1枚 ③マジックペン：参加人数分 ④資料3「C国からのメール」：1 枚拡大コピーして全体に表示する ⑤資料4「C国で何があった！？」ストーリーシート：参加人数分		
留意点	4名前後のグループ活動となるように机やイス配置など部屋のレイアウトを行い、準備物①～③を配布しておく。ワーク Ⅰ 実施後、または資料1を提示してから実施する方がよい。		
所要時間	30 分以上	対象年齢	中学生以上

学習内容 （「 」は発問や指示の例）	ポイント
1. 学芸員のあなたにC国から手紙が届いたよ！ 「あなたたちは〇〇平和博物館の学芸員です。」 ●C国から届いたメール（資料3）を全体に紹介する。 「ある日、あなたのもとにC国からメールが届きました。」 ●資料3を読み合せる。 「つまり、C国で何があったということが考えられますか。」 「では、C国であった出来事を全員で確認しましょう。」	◆参加者の立場を明確にすることで、その後の学習課題を自分事化しながら考えやすくなります。 ◆資料3（メール）は拡大コピーかスクリーンで全体に表示して、読み合せたり参加者に読んでもらったりしましょう。
2. C国で何があった！？ ●資料4を参加者全員に配布し、読み合わせる。 「C国で起こった事を要約した資料を配布します。一緒に読みましょう」	◆資料4は 6 シーンで構成されています。シーンごとに読み合わせ、各シーンへのイメージ力を高めるようにしましょう。
3. C国に“平和博物館”を創ろう！ 「このような出来事があったC国に、どのような平和博物館を創りますか。」 「何をどのように展示すれば“平和博物館”になりますか。」 「思いつくアイデアを付箋紙 1 枚に1つ、一人〇枚以上、マジックで記入しましょう。記入時間は〇分間です。」	◆ブレインストーミングの要領（一枚に1つの事柄、文字は大きく単文で、質より量、等）を全体で確認して取り組ませましょう。記入させる枚数や時間は参加者の実態に応じて設定しましょう。 ◆行ったことのある博物館を想起して構想するようにアドバイスしましょう。
4. “平和博物館”のアイデアをグループで共有しよう！ ●ある程度、記入が終わっていることを確認する。 「記入したことをA3用紙に貼りながらグループで共有しましょう。同様の内容はグルーピングしましょう。」	◆一人ずつ記入したことを読み上げながら貼り付けさせるようにしましょう。それぞれのアイデアを否定する言動がないように活動を見守りましょう。 ※資料5「アイデア例」を参照
5. “平和博物館”のイメージを全体で共有しよう！ ●グループ内の共有ができていることを確認する。 「隣のグループに付箋紙を張り付けた台紙を回しましょう。回ってきたら自分のグループにはなかったアイデアが記入されている付箋紙の右上に☆印を付けましょう。」 ●☆印記入が終わっていることを確認する。 「☆印を記入した台紙を別のグループへ回しましょう」	◆各グループで☆印をつける人を決めてから活動をスタートさせても構いません。 ◆1グループだけではなく、複数のグループの活動作品（台紙）を共有させ、“平和博物館”に対するアイデアの多様性を感じさせらるようにしましょう。
6. 次時への新たな問いの形成 ●台紙がグループに戻っていることを確認する。 「では、実際にどのような“平和博物館”づくりの支援が行われたと思いますか？」 「次はその様子を考察していきましょう。」	◆どれに☆印がついているか、☆印がついていなくても、同意見の仲間があなた以外にもいたということなので心強い等と助言したり、「特にいいね！と思ったアイデアはどれか？」と質問してもよい。

【資料3】

〇〇平和博物館の学芸員さま

はじめまして。私はC国の学芸員です。

C国にも平和博物館を創りたいと考えていますが、何をどのように展示すればいいのか困っています。ぜひ、平和博物館の創り方などを教えてほしいです。

C国　学芸員より

【資料4】

C国で何があった!? ストーリーシート

C国で起こったこと①

C国では1975～79年にかけて、
一部の人間による
国の中に「頭のいい人がいると
人々の間に階級や格差をもたらす」
「国のリーダーである我々以外の頭のいい人は
この国には必要ない！」という
偏った考えにより、ちょっとでも
「頭がいい人」と思われた者は
捕まってしまいました。

C国で起こったこと②

特に医者や先生、大学生だった人は
捕まりました。
この「頭のいい人狩り」はひどくなっていき、
「外国の思想（考え）を持っている」
「外国に行ったことがあるから」
「めがねをしている」「本を読んでいるから」
「手がやわらかい」という理由でも
「頭のいい人」とされ、捕まりました。

C国で起こったこと③

「頭のいい大人」と違い、
何も知らない子ども達は
「我々の言いなりになりやすい」
「外国の考えを知らない」
という理由から、
積極的に兵士や見張り役、
医者などの役割をさせられました。

C国で起こったこと④

「頭のいい人」の疑いをかけられ、
捕らえられた人たちは、
ある大きな建物に閉じ込められました。
建物の中に入れられると、
細い鉄棒と鉄棒の間に頭を押し付けられ、
顔を撮影されました。

C国で起こったこと⑤

収容所では、一室をレンガで仕切った
「小部屋（独房）」に入れられました。
体を横にすることもできない狭さで
トイレは部屋の隅においてある
小さな弾薬箱にさせられました。
その後は、「私はA国の手先でした」
「私はB国のスパイでした」と
"ウソの自白（告白）" を強制させられました。

C国で起こったこと⑥

両手両足を器具で縛られ、
「手下」になっていた子ども達によって
厳しい拷問にかけられ虐殺されました。
およそ200万人が殺されたと言われており、
この国の４人に一人が殺されたことになります。
生還した（生きて戻れた）のは7人で、
拷問や虐殺のシーンを覚えている者もいます。

【資料5】アイデア例

亡くなった方々の名前

使われていた道具

生還者の日記

ストーリーアニメ化する

なぜそうなったか背景をまとめる

捕えられた人の写真を展示する

独房を再現する

講座

絵本

1974年までの平和な風景

当時の部屋を再現（独房）

収容所残す

地図

内戦に至った経緯を年表にする

「他国でも同じような起こった事例」を紹介する

語りべを育成

死者数の年代別グラフ

この博物館がつくられるまでの経緯を紹介する

「これからくり返さない！」という思いの文を提示する

各国からの援助を示す

ワークⅢ “平和博物館”創りの様子を知ろう！

ねらい	写真からC国（カンボジア）における実際の平和博物館創り支援の様子を知る。 なぜ、沖縄からC国（カンボジア）へ平和博物館づくり支援が行えたか考える。		
準備物	①付箋紙（サイズ 7.5×7.5cm）：一人 10 枚程度 ②A3用紙（付箋紙を貼る台紙）：各グループに1枚 ③マジックペン：参加人数分 ④P22～29 写真A～Hの8枚（対象者の実態に応じて配布写真・枚数を変える） ⑤資料6「トゥールスレン博物館の外観」：全体表示用1枚 ⑥資料7リフレクションシート ⑦世界地図：全体表示用1枚（または、スライドで表示しても可）		
留意点	4名前後のグループ活動となるように机やイス配置など部屋のレイアウトを行い、準備物①～③を配布しておく。ワークⅠやⅡの実施後、または資料1を提示してから実施する方がよい。		
所要時間	30 分以上	対象年齢	中学生以上

学習内容 （「 」は発問や指示の例）	ポイント
1. 実際の支援の様子を知ろう！ 「実際の支援はどのように行われたか見ていきましょう。」 「今から写真〇枚を1セットにして配布します。写真をよく見比べて、どれが支援前の様子で、どれが支援後なのか、考えてみましょう。制限時間は〇分です。」 ●写真を配布し以下の発問例を参考に写真を読み取らせる。 発問例①「写真の様子をそれぞれ読み取ってみよう。何をしている所かな？写真の人物にセリフを入れてみよう。」 発問例②「どのように平和博物館が変化していったか並べ替えてみよう。」 発問例③「写真の中のあなた（＝学芸員）はどれでしょう？あなただと思う人物に〇をつけましょう。」 発問例④「支援前の写真と支援後の写真に分けてみましょう。」	◆ワークⅡを振り返ってから開始すると、参加者の好奇心を駆り立てやすくなります。 ◆写真の読み取りに苦戦している場合は、「まずは一枚の写真をじっくりと見て、何が映っているか読み取りましょう」という声掛けを行いましょう。 ◆参加者＝学芸員という立場を想起させることで、参加者がより主体的にアクティビティに取り組みやすくなります。 ◆予め写真下に一文でキャプションを記載しておき、一文中の一か所を空欄にして、その空欄にあてはまる語句を考えさせるという方法もあります。
2. 実際の支援の様子を知ろう！（全体共有） 学習内容1の全体共有を行う。 指示例①「写真の人物のセリフを紹介しながら写真から読み取ったことを説明して下さい。」 指示例②「自分たちが考えた平和博物館の変化の様子について説明してください。」 指示例③「写真の中のあなたを紹介しながら写真から読み取ったことを説明して下さい。」 指示例④「支援前と支援後の写真はどれになりましたか。またそう考えた理由も説明しましょう。 ●グループごとに発表させる。 ●グループの発表後に称賛したり、写真について付け加えたい情報があれば紹介する。	◆発表させる以外にも、台紙を他グループへ回したり、全員が起立して他グループへ移動しながら写真を見たりなど参加者の実態や時間配分に応じて、可視化の仕方を工夫しましょう。 ◆可視化した後、「驚いたこと」等を参加者に発言させてもよい。 ◆配布した写真がグループごとに違っている場合は「実はグループごとに配布した写真は異なっています。それぞれの写真を紹介し合いましょう」という声かけを行いましょう。

3. 現在のC国の“平和博物館”を知ろう！ 「次の写真を見てください。」 ●資料6）を全体に提示する。 「これは何だと思いますか。」（自由に発言させる。） 「そう、学校です。でも（ワークⅡで紹介があったように）収容所となってしまいました。では、現在、どういう施設として利用されていると思いますか。」（自由に発言させる。） 「そうです。現在は、博物館として利用されています。『トゥールスレン虐殺博物館』といいます。」	◆資料6に対する正解が出そうにない場合は、「子どもがたくさんいる場所」等のヒントを与えましょう。 ◆建物を覆うように金網が張り巡らされている理由を発問してみましょう。
4. C国はどこの国かな？ 「では、この博物館があるC国はどこの国でしょうか？」 ●自由に発言させる。 「そうです。カンボジアです。」 「では、なぜ、沖縄からカンボジアへこのような支援が行えてと思いますか？リフレクションシートに記入しましょう。」 ●リフレクションシートを配布する。 ●記入が終わっていることを確認する。 「それでは、グループ（またはペア）で共有し考えをまとめてから全体に発表しましょう。」	◆グループごとにC国を考えて発表させてもよい。 ◆参加者に世界地図上からカンボジアを指してもらってもよい。 ◆カンボジアの情報（面積、人口、料理等）を紹介してもよい（16 頁参照）。 ◆支援が行えた理由はグループで自由に話し合わせてもよい。 ◆世界、日本の“平和博物館”の数を問い、なぜ日本に多いのか発問するのもよい。 ◆平素の「平和教育」（＝「沖縄の強み」）が、国際協力にもつながるということに気付かせましょう。
5. まとめ・ふりかえり 「リフレクションシートからこの学習を通して感じた『わたしの気持ち』を3つ選び、その理由を記入しましょう。」 ●記入後はペアまたはグループ、全体で共有する。	資料7リフレクションシート「わたしの気持ち」は、参加者の実態に応じて単語（気持ち）や提示する単語数を変更・調整してみましょう。

※次ページから写真の解説を掲載しています。

　また、各写真のデータは本教材の末尾に拡大して掲載しています（合計 10 枚）。ご活用ください。

写真の解説

	写真	説明等
A		支援前の博物館内の様子。多くの写真資料等があったが、埃が付いていたり湿度管理がなされていなかったりと管理状態が不十分であった。そこで、保管方法について研修を行った。埃を落としたりつかないようにしたりすることや、保管場所は室内履きとすること、写真を保存するために写真と写真の間に紙を挟むといった管理方法を習得していった。それまで煩雑となっていった資料がより良い環境で保管できるようになっていった。
B		沖縄で行われている研修の様子。このように、現地だけではなく、現地の学芸員らを沖縄に招いても行われた。その研修成果の報告として県内で行われる発表会に向けて、その展示用の資料を作成しているところである。写真左端の沖縄県平和祈念資料館の学芸員（当時）から、定規やカッターを使って、丁寧に資料作成の指導を受けている様子がうかがえる。
C		現地にて沖縄の専門家（学芸員）が研修を行っている様子。沖縄での研修に参加できなかった現地の学芸員らに向けて沖縄県平和祈念資料館の取組を講義した。特に、戦争を知らない世代へ歴史や平和について考えてもらうために、展示方法（展示物の順番や証言映像の導入）やワークシートによる平和学習の方法を示したり、職員間の認識や解説のズレをなくすためのマニュアルの必要性についても講義したりした。
D		展示物の解説パネルを作成した様子。支援前は、写真資料や拷問器具といった実物が「ただ置かれている」という状態だった。そのため来館者は、当時の生々しい状況を感じることはできても、展示を見ながらその歴史的な背景や事実などを知ることは難しかった。そこで、展示する写真や実物等に解説を加える展示方法を研修に取り入れた。その結果、この写真のように、展示物の側に設置する解説用のパネル資料が作成されていくようになった。
E		展示物の解説パネル（上記D）を設置した様子。沖縄で研修を受けた現地の学芸員らが、帰国後にその研修で学んだことを生かして展示方法に改善を加えていった。処刑された人々の写真が名前等もなく展示されているだけだった。沖縄の専門家（学芸員）が年に1～2回現地を訪問し支援・指導を行っており、「偽の尋問調書（自白書）」「顔写真」「氏名」が一致している三名をセットにして展示することを助言している様子である。

	写真	説明等
F		現地における「移動博物館」の様子。現地の学芸員らは、本支援による研修を通して学んだことを研修後に生かすために各々のアクションプラン（行動計画）を作成した。実際に、研修参加者の一人である写真左端の人物は、博物館から離れた所に住んでいる人たちにも「移動博物館」という出張サービスを行うというアクションプランを実行した。カンボジア政府に申請をして三年目に承認がおり、実施できるようになった取り組みである。一枚一枚の写真にキャプションが付けられて展示されている。
G		カンボジアの歴史や文化について学べる冊子。現地の学芸員らが沖縄での研修を基に作成した。学校でポル・ポト政権時の歴史に触れることはタブーとされてきたため、その事実を知らない若者も多い。そこで、現地の人々にも博物館に来場してもらい、歴史や平和について考える際に用いるワークシートとして作成された。手前右の冊子がポル・ポト政権による虐殺について学べる内容になっている。（手前左は「カンボジア国立博物館」用で栄華を誇ったアンコール王朝時代に文化について学べる内容になっている。）
H		高い地位の人を収監した一人部屋。鉄製のベッドの上にはトイレ代わりの鉄製の箱と足かせが、そして、当時のこの部屋で行われた拷問を撮った写真（左壁）が展示されている様子。この部屋は実際に拷問が行われたことが分かっており、現在でもその床には血痕が残っていて、当時の悲惨さが伝わってくる空間となっている。
資料6		トゥールスレン虐殺博物館の外観。もともと高校の校舎だった場所が、ポル・ポト政権によって強制収容所となり、現在は博物館として運用されている。よく見ると鉄条網で覆われている。当初は「逃走防止」という目的であったが、拷問のあまりの過酷さに階段から飛び降りるのを防止する役割へと変化していったと伝わっている。
参考写真		トゥールスレン虐殺博物館の内観の一部で、一畳弱の個室（独房）の様子。レンガや板で仕切られている。狭い室内には空の弾薬箱がトイレ代わりに置かれていた。また大部屋もあり、多くの人が長い一本の足かせで串刺し状につながれていたという証言がある。

【資料6】

【資料7】

リフレクションシート「わたしの気持ち」

今日の授業に対する「わたしの気持ち」はどれですか？
次から3つ選び〇をつけましょう。
その他の言葉がある場合は、真ん中の□の中に自分で記入しましょう。

おどろいた	感動した	疑問が湧(わ)いた
わかった	興味深い	追究したい
楽しい		難しい
悲しい	やってみたい	大変だ
うらやましい	信じられない	関わりたい

この3つを選んだ理由を記入しましょう

（　　）月（　　）日　実施　氏名（　　）

＊＊＊カンボジア基本情報＊＊＊

【カンボジアの国旗】
中央にアンコールワット、青は王様、
赤は国家、白は仏教を表しています。

正式名称	カンボジア王国		
面積	18.1 万㎢（日本の約 1/2）	政体	立憲君主制国家
人口	約 1530 万人	首都	プノンペン
宗教	仏教（一部イスラム教）	公用語	クメール語（カンボジア語）
気候	雨季（5～10 月）、乾季（11～4月）	通貨	リエル

【カンボジアの世界遺産】

12 世紀前半、ヒンドゥー教寺院として建立されました。敷地は堀で囲まれています。1992 年に「アンコール遺跡群」として世界遺産（文化遺産）に登録されました。国旗にも描かれています。

【カンボジアの主な歴史】

年	できごと
～13 世紀	「アンコール帝国」時代
14 世紀～	タイ・ベトナムの攻撃により衰退
1884	フランス保護領「カンボジア王国」
1953	カンボジア王国としてフランスから独立。シハヌーク政権樹立
1970	ロン・ルノ将軍らのクーデター（反中親米派）。王政廃止。クメール共和制樹立。 親中共産勢力クメール・ルージュ（KR）と内戦
1975	KRが内戦勝利。民主カンボジア（ポル・ポト）政権樹立。同政権下で大量の自国民虐殺。
1979	ベトナム軍進攻でKR敗走。親ベトナムの「カンプチア人民共和国」樹立。 以後、内戦状態（KR・王党派・共和派 VS 親米派）
1991	パリ和平協定
1992	国連カンボジア暫定機構（UNTAC）活動開始。（日本初の国連 PKO 参加）
1993	UNTAC監視下で制憲議会選挙。王政復活と二人首相制連立政権。
1999	二院制へ移行、ASEAN加盟
2018	フン・セン首相首班政権発足

13 世紀ごろまで、現在のアンコール遺跡を拠点に「アンコール帝国」として黄金期を築きました。14 世紀以降、隣の国のタイ、ベトナムの脅威に対抗するためフランスの保護領となりました。第２次大戦後の 1953 年、「カンボジア王国」としてフランスから独立し、フランス支配からの脱却を果たしました。その後 17 年は、非同盟・中立を追求したシハヌーク国王のもと、平和な時代が続きました。

カンボジア王国政府は、中国、ソ連など社会主義の国々や、日本やフランスなどアメリカ以外の民主主義国家とは友好関係を維持するものの、アメリカ、南ベトナム、タイとの関係は冷却化していきます。その後、反中親米派のロン・ノル将軍によるクーデターが起こり王制は廃止、「クメール王国」が樹立されました。しかしその後、ロン・ノル政府軍と共産党ゲリラ、共産主義の反政府組織クメール・ルージュ（KR）との間で内戦がおこりました。

この内戦は、クメールルージュ側が勝利し、「民主カンボジア（ポル・ポト）」政権」を樹立しました。ポル・ポト政権下では、100 万とも 200 万ともいわれる自国民の虐殺が行われ、類を見ない「恐怖政治」が国内外を震撼させました。ポル・ポト政権の政策は、農業主体の協働社会を建設し、通貨を廃止、学校教育の否定などの極端な原始共産制の実現を強行しようとするもので、反対派に対する弾圧をとり続けました。正しいのはすべて組織が決定したことであって、個人はすべてそれに従わなければならないとされ、教員やマスコミ関係者など知識人がまず虐殺の標的にされました。彼らにとどまらず、都市住民の多数が農村に送られ集団農場での労働に従事させられました。移住に抵抗したものは強制収容所に送られ、社会に不要なものとして次々に殺害されました。また、ポル・ポト政権は、ベトナム戦争後にベトナムに対してあからさまな敵対政策をとります。こうしたカンボジアの政策に対し、ベトナム軍はカンボジアに電撃侵攻し首都プノンペンを陥落させます。ポル・ポト率いるクメールルージュはタイ国境近くのカンボジア西部へと逃れました。

以降、カンボジアでは内戦が 10 年間繰り返され、逃れたいカンボジア人は国境を越えてタイに流入し、多くの人が祖国を追われたまま「難民」として保護されました。こうした情勢を憂慮した国際社会は、カンボジアの和平に向け様々な取り組みを行い、内戦は終結。民主化の道を歩み始めました。

【カンボジアの料理】

主食はご飯で、味付けは醤油ベースのものが多く、日本と似ています。日常の食事はスープ、野菜やお肉を炒めたものを白米と食べます。

≪バイサイチュル―ク≫
カンボジアで定番の朝食。炭火でお肉を焼き、ご飯の上に薄焼き卵と一緒に乗せ、たれをかけます。

≪ソムローカリー≫
お昼ご飯によく食べるスープカレーです。パンもしくはそうめんのような麺と食べます。

【カンボジアの住居】

伝統的な家は高床式です。雨季に雨が家の中に入らないため、また暑いので床を高くして家に熱をためず風を吹き抜けるようにするためなどといわれています。

【カンボジアの民族衣装】

ソンポットクマエは女性が身に着ける伝統的なスカートです。写真は結婚式で着用されるとても豪華な織物・装飾をほどこした古典的なソンポットクマエです。

【カンボジアと宗教】

カンボジアは仏教国です。お坊さんの他に出家しているおじいさんやおばあさんがいる家も多く、仏教と生活が密接にかかわっています。

国際協力で「平和博物館」を創ろう！

◆実施学校名	沖縄県立高校（令和２年実施）	◆学年・クラス	第２学年普通科
◆科目名	地理総合（令和４年度新設科目を見据えた実践）	◆時間数	第３時／全６時間予定
◆単元名	地球的課題と国際協力（中項目名）	◆関連教科等	歴史科目・公民科目・ＬＨＲ

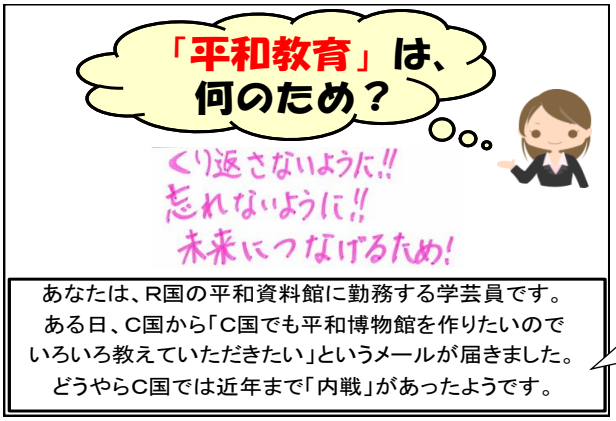
授業のねらい（本時の目標）

〇どのような平和博物館が創れるか、資料（シナリオ）から展示物や展示方法を多面的・多角的に考察・構想し、その結果を適切に説明や議論しながら表現できる。【思考力、判断力、表現力等】

〇沖縄の強みを生かす国際協力について協働して考察することを通して関心を高め、自分自身にできることを主体的に追究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

授業の概要

〇学芸員という立場に立って、海外における平和博物館創りを協働しながら考察・構想させることで、平素の「平和教育」が沖縄の強みであり、国際協力の一つになるということへの関心を高めさせ、平和な社会を創る担い手として何ができるかということを主体的に追究させる授業である。

時	授業の内容・流れ（提示したスライド等）	トピックと指導上の留意点
導入		**1．前時を振り返り本時の問いを立てよう** 「同じお題でも、いろいろな考え方や見方、感じ方があるんだね～」 前時の学習内容を全体に可視化することで多様な考え方に触れさせると同時に、本時の学習への興味関心を高めさせる。
		**2．平和博物館の学芸員になろう** 「『未来につなげる』平和教育を学芸員の立場に立って考えてみよう！」 生徒を「学芸員」という明確な立ち位置に立たせることで、学習課題を自分事として捉えさせる。
展開	**C国で起こったこと④** 「頭のいい人」の疑いをかけられ、 捕らえられた人たちは、 ある大きな建物に閉じ込められました。 建物の中に入れられると、 細い鉄棒と鉄棒の間に頭を押し付けられ、 顔を撮影されました。	**3．C国の悲劇を知ろう** 「実際にあった出来事だよ～。」 C国のできごとを①～⑥のシートに分散し、全体に紹介（読み合わせ）することで、C国の事実（悲劇）への理解をじっくりと深めさせる。

本時の問い

どのような国際協力ができるか？

あなたが学芸員だったら、内戦があったこのC国に、どのような「平和博物館」をつくるようにアドバイスしますか？

①各自で思いつくことを付箋紙に書く
②できるだけたくさんのアイディアを！
③字は大きく、単文で書く
④1枚の付箋紙に書く内容は1つだけ！
⑤他の人の意見に便乗してもOK！

行ったことのある博物館や図書室を思い出して！

4．本時の問いを再確認しよう

「行ったことのある博物館を思い出してみて～。何がどのように展示されていたかな？」

ブレインストーミングの留意点を①～⑤で示すことでアクティビティに取り組ませやすくする。

5．C国に平和博物館を創ろう

「みんなの考えを知ることで、さらに新たなアイデアが出てくるね！」

個人のアイデアをグループで共有することで、新たな価値（考え）に気づきながら構想を膨らませる。

6．実際の支援の様子を考察しよう

「支援前と支援後の違いが分かったかな？」

実際の支援前後の写真を4枚1セットにして各グループに配布し、変容の順番に並べ替えさせ、キャプションを考えさせる「紙芝居型のフォトランゲージ」を取り入れることで歴史的な見方・考え方を働かせる。

まとめ

【第2時】リフレクションシート

2年（　）組（　）番　氏名（　　）

今日の授業に対する「わたしの気持ち」はどれですか？
次から3つ選び○をつけてください。
そのほかの言葉がある場合は、真ん中の□の中に自分で記入してください。

おどろいた	悲しい	うれしい
知らなかった	楽しい	感動した
うらやましい		関わりたい
くやしい	探したい	大変だ
興味深い	やってみたい	信じられない

その3つを選んだ理由を記入しましょう

7．なぜ沖縄からこの支援ができたか考え、本時を振り返ろう

発問例①:「世界に平和博物館はいくつある？」
発問例②:「①のうち、いくつ日本にある？」

世界の平和博物館との比較させることで、なぜ、沖縄からこのような支援ができたと思うか考察させる。

授業後の生徒の感想	○沖縄戦より後にカンボジアでこのような悲劇があったことにとても驚き、事実と思えなかった。 ○私達が受けてきた「平和教育」が国際協力に役に立つということを実感することができた。 ○具体的にどんなことをやったのかもっと知りたくなり、このことをもっと多くの人に伝えたい。
授業者による所見	本時のポイントは「学芸員」となり平和博物館を構想させる点にある。多くの生徒が博物館に行った経験があるため、予想以上にその立場に立って構想する姿が見られた。授業後のアンケートでは全員が「今までの『平和教育』が国際協力に貢献できるということを協力し合いながら実感できた」と回答しており、議論を通して問題の解決方法を生み出す自己効力感が感じられた。平素の平和教育が国際協力にも有効なものであるという未来志向型な視点を認識させることができたと考える。

国際協力で「平和博物館」をつくろう！

～キャリア教育で身に付けさせたい力（か・ふ・や・み）を位置付けてみた～

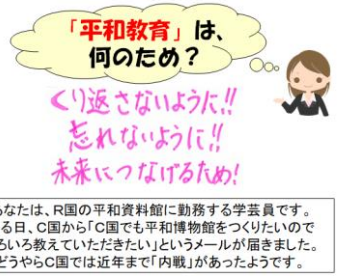
【高校　地理総合】 単元名「地球的課題と国際協力」（関連科目：歴史系・公民系・LHR等）

【ねらい】学芸員として海外の平和博物館創りを協働しながら考察・構想することで、平素の平和教育が沖縄の強みであり、国際協力になるということへの関心を高め、平和な社会を創る担い手として何ができるかということを主体的に追究する。

1. 本時の問いを立てよう！

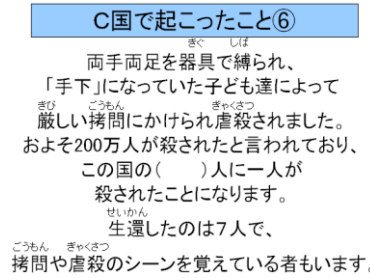
前時の学習を全体に可視化して多様な考え方に触れさせると同時に本時への興味関心を高めさせる。

2. 学芸員になろう！



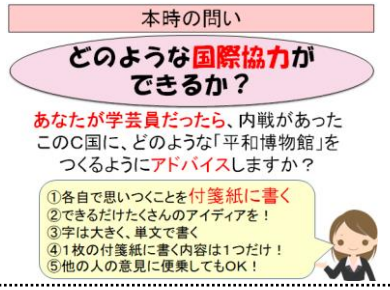
生徒を「学芸員」という明確な立ち位置に立たせることで、学習課題を自分事として捉えさせる。

3. C国の悲劇を知ろう！



C国のできごとを①～⑥のシートに分散して、C国の事実（悲劇）への理解をじっくりと深めさせる。

4. 本時の問いを再確認！



ブレインストーミングの留意点を①～⑤で示すことでアクティビティに取り組ませやすくする。

みとおす力　前時の学習を踏まえ、学芸員としてのキャリアを自分に重ね合わせながら本時の学習目標を設定する力

やりぬく力　学芸員の立場に立って、博物館等を思い出しシナリオと連動させながら平和博物館づくりを考察・構想する力

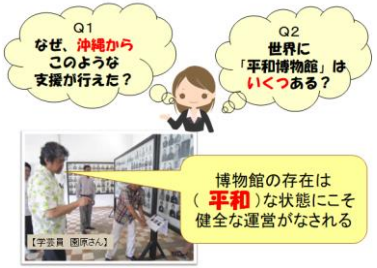
5. 平和博物館を創ろう！

個人のアイデアをグループで共有することで、新たな価値に気づきながら構想を膨らませる。

6. 実施の支援の様子は？

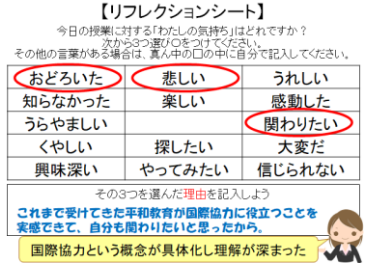
支援前後の写真を4枚1セットにして変容順に並べ替えさせ歴史的な見方・考え方を働かせる。

7. なぜこの支援ができた？



世界の平和博物館の総数等を問いながら、なぜ沖縄からこのような支援ができたと思うか考察させる。

8. どんな気持ち？



【リフレクションシート】

今日の授業に対する「わたしの気持ち」はどれですか？
次から3つ選び○をつけてください。
その他の言葉がある場合は、真ん中の□の中に自分で記入してください。

おどろいた	悲しい	うれしい
知らなかった	楽しい	感動した
うらやましい		関わりたい
くやしい	探したい	大変だ
興味深い	やってみたい	信じられない

その3つを選んだ理由を記入しよう

これまで受けてきた平和教育が国際協力に役立つことを実感できて、自分も関わりたいと思ったから。

国際協力という概念が具体化し理解が深まった

本時の学習内容や取り組みに対する自分の気持ちを選びそう思う根拠を記述させ全体で共有する。

かかわる力　個人→グループ→全体というステップを繰り返すことで、自分の考えや気持ちを伝えながら他者とかかわり協力する力

ふり返る力　本時の学習内容への自分の気持ちを選び、その根拠を記述することを通して自分の役割を考えるなど自己を見つめる力

iMac

C_{24}

D25

Study materials and documents

H

【謝辞】

本教材作成にあたって、カンボジアへの本支援に携わった方々へインタビューや写真の提供等をしていただきました。ありがとうございます。また、JICA 沖縄には企画・調整・公開方法等について、心強いご支援をいただきました。誠にありがとうございます。

【制作】チームゆいまーる

（チームゆいまーるとは）

沖縄のことを題材にした「国際理解教育・開発教育」教材の作成を目的に集まった有志の会です。JICA 沖縄関係者や元青年海外協力隊、JICA 主催の教師海外研修経験者といったメンバーで構成されています。

本教材では、沖縄の強みを生かした「カンボジア」への支援を題材に取り上げました。

〔メンバー〕

西 原 久美子	（元 JICA 沖縄職員）
金 城 さつき	（JOCA 沖縄職員）
土 橋 泰 子	（青年海外協力隊ＯＢネパール）
川 満 勝 美	（小学校：研修先ボリビア）
内 山 直 美	（中学校：研修先ブラジル）
伊 波 郁	（高　校：研修先ボリビア）
我如古香奈子	（高　校：研修先ブラジル）

発行日　2022 年３月
執筆　我如古香奈子　金城さつき　西原久美子
編集　土橋泰子
発行　JICA 沖縄
〒901-2102 沖縄県浦添市字前田 1143-1
TEL　098-876-6000
URL　https://www.jica.go.jp/okinawa

本教材の著作権は JICA 沖縄に帰属します。著作権法上の例外を除いて、教材の全部または一部を無断で複写したり、転写・引用等をしたりしないでください。複写による利用は、学習的な調査研究、「非営利」の教育・学習活動に限ります。

本教材を利用して非営利目的の講義等を実施する際には、事前の広報資料や当日の配布資料、事後のレポート等に、使用する著作物の著作権者が当団体であることを明示してください。例えば「JICA 沖縄発行の教材です。詳細は https://www.jica.go.jp/okinawa を参照」等の表記をしてください。

チームゆいまーる